

〔18年10月号月報の概要〕

1 市場動向の概要随時

(1) 野菜

8・9月の実績

- ・6、7月と天候不順の影響で全体の入荷量は前年を下回り、価格は全般に高値基調。8月は食用菊、ばれいしょを除きすべて前年を上回る価格で取引、9月中旬に入り入荷も急増し、高値反動もあり、なす、だいこん等で下落。

10月の見通し

- ・秋野菜の出回る時期となり、全般に作柄は良好で、安定した入荷となる見込み。但し、にんじん、ねぎ、なす等ではやや天候不順の影響が残り、入荷量は前年を下回り、価格は高値相場。
- ・本県主力品目のねぎは、東北産の生育遅れにより、入荷量は前年をやや下回り、価格は低迷した前年を上回る見込み。

(2) 果実

8・9月の実績

- ・6、7月と天候不順の影響で全体の入荷量は前年を下回り、価格は全般に高値基調。8月は特に、なし、すももが入荷量で前年比3割減のため高騰した。9月中旬に入り入荷量も安定してきたが価格は堅調に推移した。

10月の見通し

- ・中旬よりラ・フランス入荷。
- ・入荷量は、なしを除きほぼ前年並の入荷となる見込み。なしは主産地の大分、茨城が不作で前年を大幅に下回る入荷。本県主力のラ・フランスは豊作であった前年はやや下回るも、ほぼ平年並の作柄。

(3) 花き

(9月入荷状況)

- ・彼岸、敬老の日需要で比較的活発な取引となった。特に彼岸では、主力の輪菊、りんどうがやや出遅れやや品薄となり引き合いが強くなった。

(10月見込み)

- ・大きな物日もなく、ブライダル・業務需要中心の取引となる見込み。

2 輸入青果物の品目別累計速報

- ・18年7月の累積入荷実績は、生鮮野菜では数量ベースで前年比83%、金額ベースで104%。生鮮果実では数量ベースで前年比92%、金額ベースで92%となっている。

3 消費地からのホットニュース

- ・地位特産物売り込むために